

平成30・31年度「特別支援学校教科指導充実事業」
「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における
各教科の指導の充実」

—新学習指導要領を踏まえた

児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究—



《研究授業1回目》

*9月20日(木)に国語と算数の研究授業を行いました。

指導・助言：古山 勝先生(千葉県立香取特別支援学校教諭)

【算数】 (小学部 通常学級)

単元名「長さをはかろう」



【国語】 (中学部 通常学級)

単元名「説明文を読もう」～おならは いったい なんだろう～



*ワーキンググループ研修

・国語と算数のグループに分かれて

- ① 実態把握について
- ② 単元の指導計画について
- ③ 指導目標の設定について



*参観者が付箋に<良かった点> <改善すべき点>を記入し、協議を進めました。



【国語】

- ① 授業を通して対象生徒の実態に変化が見られるようになってきた。(→③指導目標の検討)
- ① 実態について、もう少しできそうな部分や変化してきた部分を指導案に加えるようにする。
- ② 単元の時間の組み方の検討が必要。
- ② 問題の出し方と答えの導き方の検討が必要。
- ② 教材の工夫次第でさらに良い学びにつなげることができそう。
- ② 大まかな流れは変えずに、内容を焦点化してはどうか。

【算数】

- ① 実態が良くとらえられていて予想される児童の言動がぴったりだった。
- ① 「本時のまとめ」→「振り返りの発表」という流れは良かった。授業後「花丸だったでしょ？」と自慢していた。
- ② 測定するものも自分達で選ぶ、見つける活動が合っても良かった。
- ③ 対教師ではなく、2人で話し合う機会があっても良かった。



11月の公開授業に向けて改善すべき点について協議を進めています。

研修を重ね、活発に意見が出るようになってきました。

【授業者の感想】

授業が終わった後に古山先生が子どもたちに「よーくがんばったね。」と声をかけ頭をなでてくれた時の生徒の誇らしげなうれしそうな表情が印象的でした。生徒に声をかけるタイミング・表情の大切さを改めて感じました。褒められた生徒たちは、その後の授業にもとても前向きに取り組めていました。自信につながったのだと思います。

私も今後も教材や支援を工夫して生徒が『できた』『学びたい』という意欲を高めていきたいと思います。 <国語 授業者>

古山先生に授業を見ていただき授業の改善すべき点がはっきりと分かりました。

その一つとして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて『ペア授業』を取り入れたり、問題の提示の仕方を工夫したりすることが必要であることが分かりました。

今後、御指導していただいたことを生かして授業を改善できるように努めていきたいと思います。 <算数 授業者>

* 古山先生からの指導・助言



- ◎知的支援教育における教科指導について、変わろうとここまで進めてきたことに頭が下がる思いです。
- ◎実態について・・・何を学んで、何が学べていないのか、単元設定の理由に入れても良いのでは。
- ◎どこまで学びを定着させたいのか・・・できない部分を補助教材で補うことは大切。
- ◎小学校の単元構成を参考にするとよい。
- ◎授業の中でTTが協力しあい、授業を進めていけるとさらに良い授業になる。

* 研究授業2回目は、公開授業日となります。



日時：11月21日（水）
 授業者：9月の研究授業と同じ教諭が実践します。
 事例検討会：国語・算数のグループに分かれて『授業づくり』について協議を行います。
 講演会：「知的障がい支援学校における児童生徒の実態把握と各教科の授業づくりについて」
 指導・助言：古山 勝先生（千葉県立香取特別支援学校教諭）

<11月21日の予定>

10:00	10:20	11:05	11:10	12:00	13:10	14:05	14:30	15:20	15:30	17:00
受付・準備	授業参観 (小)	授業参観 (中)	昼食 休憩	自由参観	休憩	事後検討会	休憩	講演会		